

令和 8 年度 長崎県 英語教育改善プラン

目標

積極的にコミュニケーションを図り、英語で自分の考えや気持ちなどを発信することを楽しむ児童の育成を目指す。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンス含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① 言語活動の充実に向けては、R5から3か年で「アップデート研修」を実施し、目的や相手意識を明確にした授業づくりなど、授業改善への理解が深まったことがうかがえる。

② 英語発信力強化先進モデル校指定事業を中心に、異文化交流を実施し、児童の「話すこと」への自信につながった。

未だ改善が必要な点

① 指導と評価の一体化
研修会の演習の様子から言語活動の内容や技能等と、パフォーマンステストの内容や技能等との整合性に課題が見られる。

2. 要因分析

① 「言語活動を通して」指導することへの理解について、継続的に研修で発信し続けたことや、英語専科担当教員による実践事例の共有や協議を通して、参加者の指導改善につながったことが要因と考えられる。

② 外国語に触れる授業や学校行事において、児童とネイティブが交流する機会を設けたことで、他者との関わりを重視した言語活動の実践が要因と考えられる。

① 言語活動については一定の改善が進んでいる。一方、パフォーマンステストのゴールが意識されていない言語活動が見受けられる。
(CAN-DOリストの活用) そのため、効果的な活用の仕方や情報共有が必要と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

＜教師の指導力向上と授業改善の推進＞

- ・中学校英語エヴァンジェリスト（MIRAIプロジェクトより）と連携し、市町の小中外国語部会等において、生成AIを活用した英語でのやり取りの向上や簡易的な英文作成の支援を目指した授業改善の在り方を共有する。
- ・文部科学省主催の教師の指導力向上オンライン研修への参加を促し、研修の成果を市町の外国語部会等で普及させる。

＜研究内容の成果を共有する動画チャンネルの開設＞

アップデート研修に係る資料の閲覧。また、チャンネル内に投稿された英語エヴァンジェリスト研修会の内容や日頃の授業動画、教材等を小、中学校の英語教員がいつでも共有できるようにすることで、授業改善につなげる。

＜自分の考えの発信・異文化交流の場の設定＞

自分の考えを英語で発信したり、外国籍の児童生徒と交流したりする「グローバルスピーチフェス」を開催することで、児童が英語で話すことや異文化交流の楽しさを実感することができるようにする。

【長崎県公立学校教員採用選考試験の改革】教育人事課との連携

① 英語の外部試験資格を所持する受験者及び中学校教員免許を所持する受験者に加点制度を設けている。

② 令和 8 年度より小学校英語専科の採用を開始。

【施策・事業】[第四期長崎県教育振興基本計画](#)【2024（令和6）～2028（令和10）年度】 - [長崎県ホームページ](#)

令和 8 年度 長崎県 英語教育改善プラン

目標

国際社会で活躍できる人材の育成に向けて、多様な文化や価値観を理解し、英語を実際のコミュニケーション手段として活用できる生徒の育成。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：49.1%⇒R8：60%）

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒のCEFR A1レベルが若干ではあるが上昇傾向にある。
(R6:47.2%⇒R7:49.1%)

②各市町においてオンライン交流など発信力強化に向けた施策が増加傾向にある。

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力 CEFR A1レベル以上の生徒が若干の増加傾向にあるが依然として目標値に達していない。
(R7:49.1%)

2. 要因分析

①県学力調査とCEFRとの相関関係について大学教授に分析を依頼し、客観的指標を示すことができたことが一因と考えられる。

②県・市町教育委員会とともにグローバル人材育成に向けた協議会を開催し、研鑽を重ねてきたことが要因の一つと考えられる。

①「まとまりのある英文を書くこと」「即興的に話すこと」などの言語活動における練習量と指導方法に教師間の差があることが考えられる。また、本県の重点課題への意識やそれを受けた授業改善への取組状況及びCEFRの見取り方について地域間・学校間の差があると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

R8～R10年度 英語で発信！「MIRAI」プロジェクト

<英語発信力の強化 ～話すこと・書くこと～>

- ・英語発話量（会話練習量）増加に向けてAI英会話アプリを活用し、話すことへの自己効力感を高め、話す力の育成を図る
- ・英文添削等に汎用型AIを活用し書く練習量の増加と書く力の育成を図る

<教員の指導力の向上 ～授業改善～>

- ・県内全 21 市町にAI活用のリーダーとなる英語エヴァンジェリストを選出し、汎用型AIを活用した教材の開発や授業実践を展開
- ・エヴァンジェリストが研究したAIの効果的な活用方法や実践事例を各市町及び県主催の研修会等で共有し、研究内容を県内に発信

<研究内容の成果発信>

- ・研究の成果等を県が開設するWebサイトやYouTubeチャンネルで県内に広く発信

【施策・事業】[第四期長崎県教育振興基本計画【2024（令和6）～2028（令和10）年度】](#) - 長崎県ホームページ

令和 8 年度 長崎県 英語教育改善プラン

英語をコミュニケーションツールとして国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。
ICT機器等を活用しながら英語の「読む、書く、聞く、話す」の4つの技能をバランスよく育むとともに、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 42.2%、B1以上 17.7% ⇒ R8 : A2以上 57%、B1以上 22%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①英語担当教師の英語力について、昨年と比較するとCEFR B2、C1ともに割合が高くなっている。
B2:R6 86.2%⇒R7 89.0%
* 全国平均は84.9%(R7)
C1:R6 19.3%⇒R7 29.5%
* 全国平均は25.8%(R7)

①CEFRA2レベル、B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が全国平均を大きく下回っている。
A2レベル
R6:44.7%⇒R7:42.2%
* 全国平均は52.4%(R7)
B1レベル
R6:18.4%⇒R7:17.7%
* 全国平均は23.9%(R7)

2. 要因分析

①について
「授業は英語で行うことを基本とする」という方針に沿って、授業を計画、運営するにあたり、英語の使用頻度が増え、運用能力が向上したことが考えられる。また、英語学習アプリ等を用いての勉強の機会が充実してきていることや、資格試験への意識の向上が考えられる。

①について
外部検定試験の受験者数が減少していることから、試験を受けることや客観的に学力を測ることの意義が認識されていないと考えられる。

外部検定試験の受験したことがある生徒
R6:51.7%⇒R7:40.0%
* 全国平均は47.5%(R7)

3. 目標を達成するための施策・事業

①について
文部科学省主催の「英語資格・検定試験の特別受験制度」を活用する。また、初任者研修や学校訪問、各種研修会などにおける指導助言の機会を活用し、授業における教師の英語の使用や、生徒の英語による言語活動の充実についての周知を図る。

①について
外部検定試験の受験を契機として、英語への興味・関心を高めるとともに、英語に触れる機会の充実を図り、英語をコミュニケーションツールとして活用できる人材の育成を目指す。そのため、英語担当教諭に対して本事業に関する情報提供を行い、教材の効果的な活用を促進する。加えて、令和6年度から本県に配置されている英語指導教諭とともに、初任者研修や各学校への訪問を通じて指導と評価の一体化を推進し、生徒が相応の英語力を身につけられるよう、本県における英語教育の一層の充実を図る。

◆“世界とつながるNAGASAKIグローバル人材育成事業”
○オンデマンド配信教材による英語学習支援
外部委託して作成したオンライン教材を活用し、高校生の英語学習の充実に向けた支援を行う。ICT端末を用いて、家庭学習や隙間時間などに英語の学習に取り組む支援とする。また、中学生にも周知し、英語学習の支援につなげていく。
○メタバースを活用した外国語教育
メタバース空間にて、ALTとの個別英会話や各種検定試験面接練習、外国人学生との交流イベントなどを実施する。
○国内短期留学プログラム（テンブル大学ジャパンキャンパスとの連携）
テンブル大学ジャパンキャンパス京都にて4日間の英語学習プログラムを実施する。

長崎県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (%)	50	45.2	50	44.7	53	42.2	57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (%)	22	16.5	22	18.4	22	17.7	22		22		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (%)	65	54.4	65	51.5	65		65		65		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合 (%)	50	84.3	90	53.5	90		90		90		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定 (%)	100	100	100		100		100		100	
		公表 (%)	60	50.7	60		60		60		60	
		達成状況の把握 (%)	70	60	70		70		70		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 (%)	84	83.6	85	86.2	85	89	85		85		
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合 (%)	70	30.5	70	37.4	70	32.9	70		70		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	48.6	60	47.2	60	49.1	60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	73.2	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	100	88.2	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	95.8	100		100		100		100	
		公表(%)	55	52.7	55		60		65		70	
		達成状況の把握(%)	100	71.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	41.9	50	40.1	50	49.6	50		50		
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	100	59.3	100		100		100		100		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80	60.5	80		80	85		90	
		公表（％）	35	23.7	35		40	45		50	
		達成状況の把握（％）	80	49.7	80		80	85		90	